



平成26年度全国学力・学習状況調査結果から



【中学校】	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較	平均正答率(%)	全国比較
浜松市	81.5	+2.1	53.9	+2.9	71.1	+3.7	64.4	+4.6
静岡県	80.8	+1.4	52.5	+1.5	70.9	+3.5	63.7	+3.9
全国	79.4		51.0		67.4		59.8	

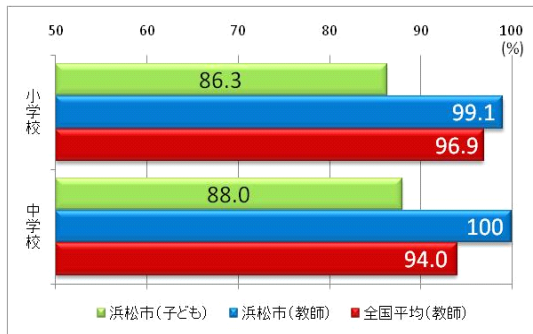
平成26年度全国学力・学習状況調査における浜松市の中学生の結果は上記のとおりでした。昨年度と同様に、全てにおいて全国平均を上回りました。特に、数学Bにおいては、全国平均を大きく上回る良い結果でした。

この報告書は、調査結果から見てきた浜松市の子どもの学力や生活習慣の傾向と課題、また、それに対して各学校で取り組んでほしいことや授業改善のアイデアについて、以下の項目ごとにまとめてあります。

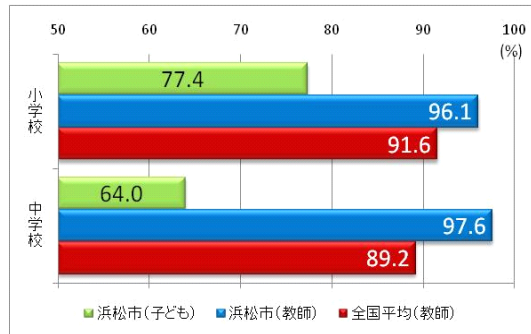
- 質問紙の傾向と改善の視点
- 国語の傾向と授業改善
- 数学の傾向と授業改善

教師の取り組みと子どもの意識の差を問う

Q 授業のはじめにめあてが示されていましたか。(めあてを示す活動を計画的に取り入れましたか。)



Q 授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っていましたか。(振り返る活動を計画的に取り入れましたか。)



浜松市の教師は、授業のはじめにめあてを示すことや振り返る活動を、全国と比較しても高い割合で計画的に取り入れています。しかし、子どもに同様の質問をした結果、教師の取り組みと子どもの意識には大きな差が見られます。



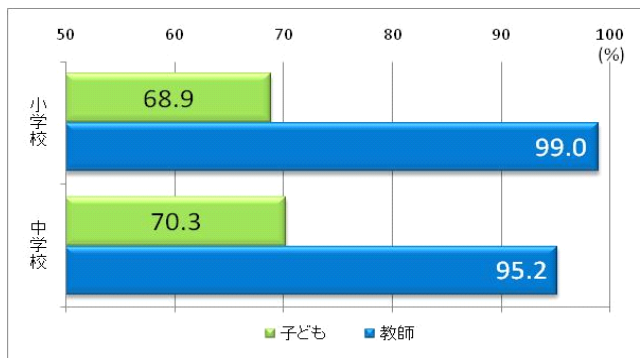
子ども自身が「何を学ぶのか」がはっきりと分かり、「どう学ぶのか」という見通しが持てるめあての提示を工夫しましょう。また、「この時間にどんなことが分かったのか」、「何ができるようになったのか」が実感できる振り返りを工夫しましょう。

プロ教師として
指導の質を磨く

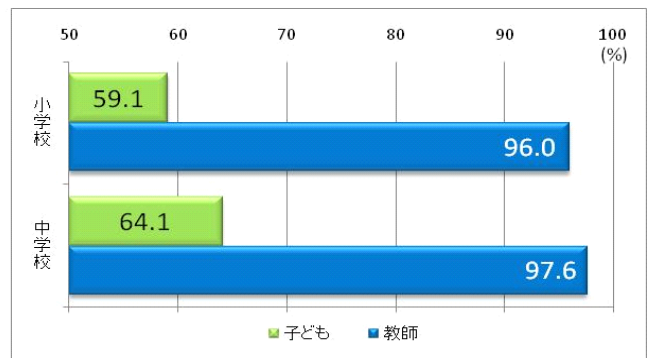
子どもと教師の意識には差があります。私たちは、目的やねらいを明確にして指導する必要があります。

教師の指導と子どもの意識の差を問う

Q 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができたと思いますか。(思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。)



Q 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。(分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。)



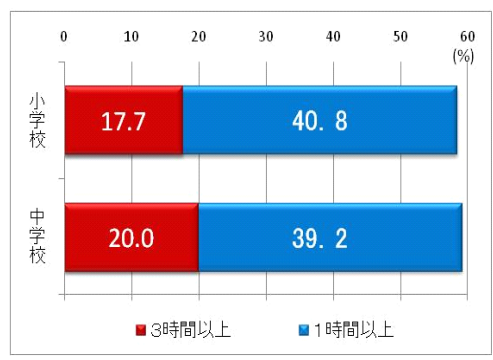
話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりすることや、自分の考えを他の人に説明したり記述したりすることに関して、教師の指導と子どもの意識との間には約30%前後の差があります。

話し合う活動をすることが目的ではなく、意見のやりとりを通して考えが深まったり、新たに気付いたりする活動となっているかを大事にしましょう。そして、どう伝えると分かりやすいかというポイントを、発達段階に応じて指導しましょう。

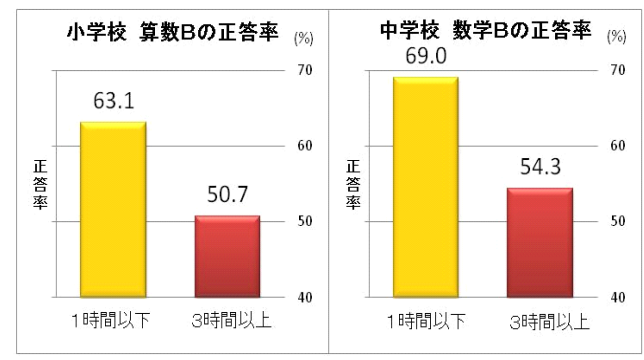


子どもの生活習慣を問う

Q 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。（3時間以上する、1時間以上すると答えた児童生徒の割合）



Q 「テレビゲームをする時間」と「算数(数学)Bの児童生徒の正答率」との関係。



浜松の子どもは、「自分には、よいところがある」（小学生：81.4%、中学生：74.0%）「学校に行くのは楽しい」（小学生：89.6%、中学生：83.8%）と自分自身や学校を肯定的に捉えています。「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の問いでは、1時間以上する子どもの割合は約6割でした。テレビゲームをする時間と算数（数学）Bの正答率との関係は、ゲームをする時間が長いほど正答率が低くなる傾向が見られます。他の科目も同様の傾向です。

子どもの家での過ごし方や、テレビゲームなどの利用についての約束事（ルール）を確認しましょう。学校と家庭が協力をして、子どもにとって望ましい時間の使い方を一緒に考えていきましょう。

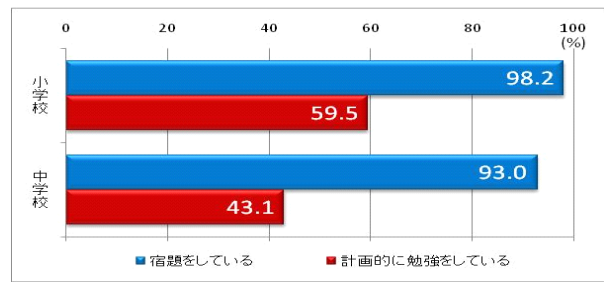


学校と家庭との 連携の質を問う

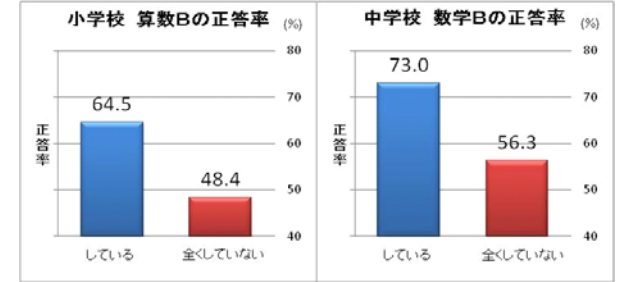
学校と家庭と力を合わせて、子どもの成長を保障していきましょう。

子どもの学習習慣を問う

Q 「家で、学校の宿題をしていますか。」と「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」（肯定的に答えた児童生徒の割合）



Q 「家で、自分で計画を立てて勉強をする児童生徒」と「算数(数学)Bの児童生徒の正答率」との関係。



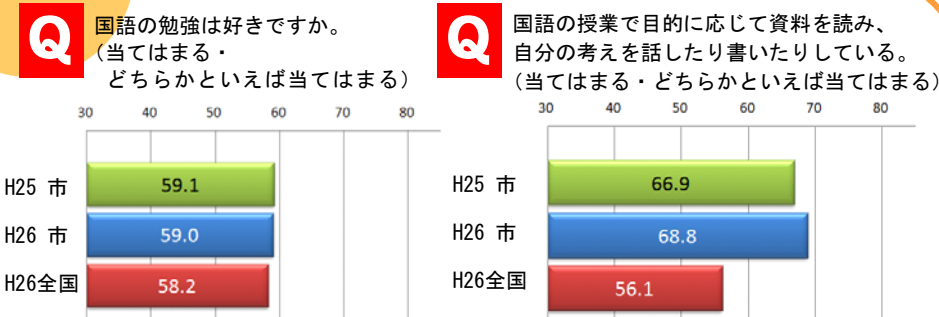
「家で、学校の宿題をする」子どもは、昨年度同様、非常に高い割合にあります。一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をする」子どもは、全国平均と比べても決して高いものではありません。

家庭学習の習慣が身に付いているのは、学校や家庭の見届けがされていることの表れです。ドリルや漢字などの反復練習だけでなく、子どもが授業で身に付けた力を確認できる問題や、活用して解く問題など、子どもに与える内容や方法を工夫しましょう。また、各校で作成している「家庭学習の手引き」を活用して、具体的なやり方を教えたり、子どもに合った学習内容を助言するなどして、計画的に学習が進められるようにしましょう。

家庭学習を充実させる中で、子どもの主体性を育む取り組みを、学校と家庭が協力して進めていきましょう。



質問紙調査から見てきたこと



昨年度の本市の状況とほぼ同じ割合で、全国の割合をやや上回っている。

全国の割合を大きく上回り、昨年度の本市の状況より向上している。

子どもが目的を意識して国語の学習に取り組んでいることが分かります。これは、教員が子どもに学ぶ目的意識を持たせて授業に取り組んでいる成果でもあります。国語の勉強が好きな子の割合をさらに向上させるために、今後も、課題をより魅力的なものにし、学ぶ目的意識を強く持たせるようにすることが大切です。

結果から学ぶ 結果を生かす

国語の授業を分かる・楽しい授業にするために、課題解決的な活動を設定しましょう。その活動の中で、身に付けた知識や技能を使ったり、それらを活用させて思考・判断・表現等を行ったりする場を意図的につくりましょう。

良好だと考えられること

話す・聞く力の「質問する」、「司会をする」については、概ねできている。

- ・ 報告会において、資料を基に相手にどのような質問をしたらよいか考えることができた。
- ・ 学級活動の話合いの方向を捉え、司会としてどのように進めればよいか判断できた。

基礎的な書く能力を測る問題は全国の平均正答率を上回り、概ねできている。

- ・ ウェブページの項目に適切なものを選ぶことができた。(取材：集めた材料の分類)
- ・ 文章を書くために、適切な付箋メモを選ぶことができた。(構成：必要な付箋の選択)
- ・ 文章の構成を変える理由を考えることができた。(推敲：書き替えの根拠)

文学的な文章、説明的な文章を読む力は、概ね付いている。

- ・ 主人公の心情や行動、言動の意味が理解できた。(文学的な文章「坊っちゃん」より)
- ・ 文章全体と部分の関係を考え、筆者が追求した理由を明らかにすることができた。(説明的な文章「動物の言い分、人間の言い分」より)

課題だと考えられること

言語の知識や技能を測る問題には、正答率が全国を下回るものや著しく低いものがある。

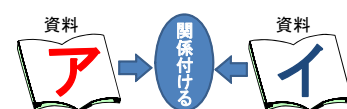
- ・ 漢字 …書き「半径」、読み「音響」
- ・ ことわざの意味 …「急がば回れ」
- ・ 四字熟語の意味 …「単刀直入」
- ・ 辞書の意味を調べる…「英気を養う」

上記の問題から、語句の意味が十分に理解できていないことが分かる。

→【授業改善例 1 へ】

複数の資料を関係付けて考える問題は、どれも正答率が低く課題である。

- ・ 本の一部(説明的な文章)とインターネットの情報の一部(解説資料)を比較できない。
- ・ 学級活動における二つの意見の共通点や相違点を考えられない。
- ・ いくつかの条件を基に、資料「落語のあらすじ」と資料「落語の最後の部分」を関係付けて書けない。



→【授業改善例 2 へ】

授業改善例 1

語句の意味を調べるだけでなくその語句を実生活で使う

指導のポイント

- 漢字や四字熟語、ことわざ、慣用句、故事成語などについて、辞書などを活用して調べた上で、文脈の中でどのように使われているのかを考えたり、実生活の場面で積極的に使ったりすることが大切である。

指導例

調べた言葉を様々な方法で蓄積したり使ったりする。



- 言葉の意味調べ
- ことわざ、慣用句などの蓄積
- 言葉のイメージを広げるスケッチ
- 韻文創作のための言葉集め

- 季節を表す言葉
- 時候の挨拶
- 旧暦の話
- 格言



- 体験した事柄を慣用句などで表現して日記に書く。
- 様々な言葉を書き込む言葉のコラムを設ける。



教師の話の中で

【学習指導要領 国語科】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

■小学校第3学年及び第4学年

「ことわざ、慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」

※この間の学年でも、学校生活の中で意図的に扱う。

■中学校第3学年

『慣用句』に関する知識を一層広げて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して身に付けさせる…」

授業改善例 2

複数の資料を関係付け、思考する授業をつくる

「関係付ける」と思考が

深まります。



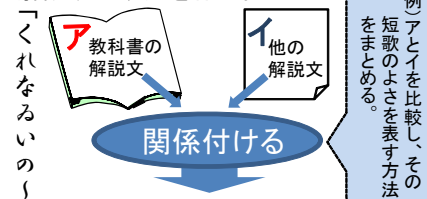
指導のポイント

- いくつかの教科書教材を同時に扱ったり、教科書教材と関連する資料を用意して関わらせたりするなど、複数の資料を関係付けることが大切である。

指導例

2年 豊かな言葉「新しい短歌のために」
「短歌十二首」(光村図書)より

○有名な短歌の解説文を複数比較し、解説する観点を作る。



【短歌を解説する観点】

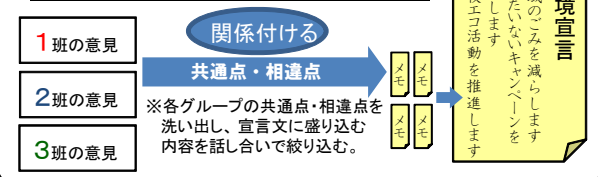
- A 伝えたい思い
- B 作者の目のつけどころ
- C 効果的な表現技法(倒置法、体言止め等)

○「短歌十二首」から好きな短歌を選び解説する。

3年 課題解決に向けて話し合おう
「社会への提案をまとめる」(光村図書)より

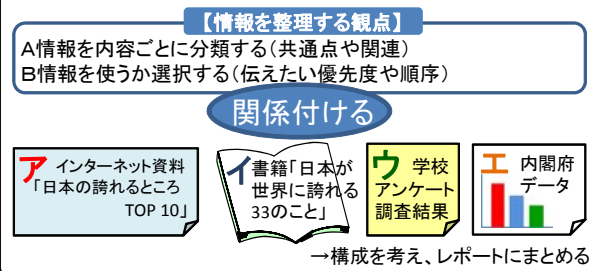
テーマ「3年1組環境宣言をしよう」

- ①グループ会議(宣言の原案作成)
- ②全体会議(宣言文に盛り込む内容を決める)



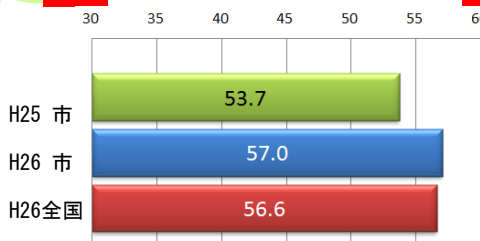
1年 調べたことを報告しよう「レポートにまとめる」(光村図書)より

テーマ「日本が世界に自慢できることってなんだろう。」
集めた情報を観点を基に整理する



質問紙調査から見えてきたこと

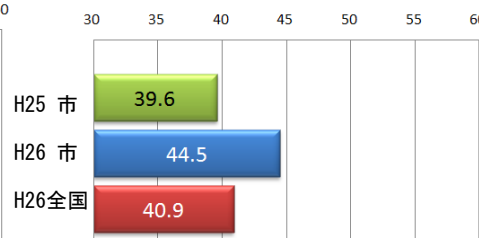
Q 数学の勉強は好きですか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



「数学が好き」という子どもが全国、昨年度を上回った。ただし、依然として6割を切っている。

数学が日常に活用できるよさをもっと知り、数学を学ぶことの意義や価値を実感させることが大切です。

Q 数学の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



「数学は日常に活用できる」という子どもが、昨年度より伸びたが、依然として5割を切っている。

結果から学ぶ 結果を生かす

分かる・楽しい数学の授業にするために、指導と評価の一体化を進めることと、数学を学ぶ意欲を高め、学ぶ意義や価値、活用できるよさを実感する授業実践をしていきましょう。

良好だと考えられること

基本的な計算力が身に付いている。

正負や文字の計算がよくできていた。式の値を求めることや式変形についても正答率が高い結果であった。

$$10x - y \div 5x$$



資料を活用する基本的な問題の正答率が伸びている。

3年生の通学時間

階級(分)	度数(人)
以上 未満	
0～10	5
10～20	9
20～30	14
30～40	18
40～50	11
50～60	3
合計	60

相対度数、中央値、統計的確率などの基本的用語や意味を問う問題の正答率が全国と比べて高く、伸びている。

記述式の問題で、事実や手順を説明することが比較的得意である。

記述式の実事や手順を説明する問題では、全国平均正答率を大きく上回っている。

証明の仮定や結論を指摘したり、どんな方法で説明したらよいか(式や表、図など)を選択したりできている。

グラフから、時間は人数に比例していることが分かる。



課題だと考えられること

日常事象の中にある関数の意味の理解に課題がある。

「重量を決めると料金はただ1つ決まる」ということを、「関数」を使った言葉で表すことに課題がある。

下の表は、ある運送会社の書類の宅配サービスの料金表です。

重量	100gまで	250gまで	500gまで	1kgまで
料金	150円	190円	270円	320円

このサービスで扱える書類の重量は1kgまでです。

→【授業改善例1へ】

予想された事柄が成り立たないことを判断し、その理由を説明することに課題がある。

「右の結果から、2つの偶数の積は、いつでも8の倍数になる。」
は成り立ちますか？

2, 4 のとき	$2 \times 4 = 8 = 8 \times 1$
4, 6 のとき	$4 \times 6 = 24 = 8 \times 3$
10, 16 のとき	$10 \times 16 = 160 = 8 \times 20$

結果は、8の倍数になっているからいいのかな…？
成り立たないことを説明するにはどうしたらいいのかな…？



成り立たないことを説明するには、反例をあげるんだよ。



→【授業改善例2へ】

授業改善例 1

日常事象の中の関数関係を取り上げる授業

指導のポイント 日常事象の中から、二つの数量の変化や対応の様子を見いだす力を付けていく。



- 関数指導は形式的に式・表・グラフの関連性を学ぶだけではなく、日常事象の中にある数量の関係を多くとらえ、関数の理解を深めていく指導をする。

指導例

- 日常事象の中にある2つの数量関係について、関数の意味を深める授業を行う。

問題 2つの変数 x 、 y について、 y は x の関数であるといえるものを選びなさい。

- 1個300円のケーキ x 個を、50円の箱に入れた時の代金 y 円。
- 身長 x cm の生徒の体重を y kg とする。
- 通話時間を x 分、そのときの携帯電話料金を y 円とする。
- 360km の道のりを、時速 x km で走る自動車の走った時間を y 時間とする。
- 長さ13cm の線香があり、この線香に火をつけてから x 分後の線香の長さを y cm とすると、 x と y の関係は右の表のようになる。

x (分)	0	2	4	6	8
y (cm)	13	12	11	10	9

関数理解を深める授業ポイント

- y は x の関数であることは、式だけではなく、表やグラフを用いても伝えることができることを確認する。
- ③の場合、携帯電話料金のプランが定額制とすると、 y は x の関数であるが、 x は y の関数ではないことを確認し、何を x とし、何を y とするかをはっきりさせることの必要性を実感させる。
- 関数の種類を確認しながら、⑤のような x の値が大きくなるにともなって、 y の値は小さくなる場合が、反比例とは限らないことを確認する。

授業改善例 2

思考力・判断力・表現力をさらに育む授業

指導のポイント 反例をあげて説明したり、記述したりする力を伸ばす。

- 予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たないことを反例をあげて説明する場面を設定し、成り立たないことやできないことを説明することの必要性を実感できる活動を取り入れる。



指導例

- 成り立たない例があるかを判断させ、反例がある場合は、その理由を説明する場面を設ける。反例が一つでも存在すれば、正しくないことを確認する。

問題 「2数の和が偶数ならば、その2数はともに偶数である」ことは、正しいだろうか。

パターン1 (偶数)+(偶数)=(偶数)

例 $2 + 4 = 6$ → **成り立つ**

パターン2 (奇数)+(奇数)=(偶数)

例 $3 + 5 = 8$ → **成り立たない**

パターン3 (偶数)+(奇数)=(奇数)

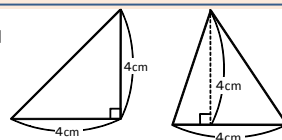
例 $2 + 5 = 7$ → **2数の和が偶数という条件に合わない**

パターン2「 $3+5=8$ 」のように成り立たない反例が存在すれば、「2数の和が偶数ならば、その2数はともに偶数である」とは言いえない。パターン3との区別ができることも大切である。

問題 「二つの三角形が合同ならば、それらの面積は等しい。」ことの逆をいいなさい。
また、その逆は成り立ちますか。

逆
二つの三角形の面積が等しければ、それらの三角形は合同である。

反例



逆は正しくない

